

## 令和6年度 学校経営報告書（分掌等 自己評価 まとめ）

学校番号	7	学校名	静岡県立伊豆総合高等学校	校長名	所 康俊
------	---	-----	--------------	-----	------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

## 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	担当部署	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的な生活習慣を身に付け、主体的に行動できる生徒の育成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、環境美化、時間を守る意識をもった生活ができた生徒80%以上</li> <li>服装・頭髪のルールを守ることができた生徒80%以上</li> <li>情報モラルを理解して、スマートフォン等の情報機器を使用している生徒80%以上</li> <li>健康面の自己管理をし欠席・遅刻・早退をしないよう意識して学校生活を送れている生徒90%以上</li> <li>朝食摂取率98%以上</li> <li>治療勧告の受診率50%以上</li> <li>自転車交通事故、年3件以内</li> <li>学校行事を積極的に行う生徒85%以上</li> <li>部活動が充実し前向きな活動ができていた生徒80%以上</li> </ul>	生徒 教務 保相 学年	<p>「あいさつができる」91.9%</p> <p>「ゴミは正しく捨てている」98.0%</p> <p>「時間を守って生活できている」96.6%</p> <p>「服装・頭髪のルールを守って生活できている」95.2%</p> <p>90%を上回る生徒が、校内生活では生徒自ら丁寧なあいさつができ、正しい服装で生活できている。また、ごみ捨てなど環境の美化にも努めることができた。（生徒）</p> <p>「情報機器は、ルールやマナーを守って使用している」96.9%</p> <p>授業やクラスでの情報モラル啓発を行うことで、96.9%の生徒が正しく使用することができた。（生徒）一人一台端末の初期設定で、情報モラルに関する指導を実施。情報モラルの理解は高まっている。（教務）</p> <p>「健康面の自己管理ができている」93.6%</p> <p>C ラーニングで生活チェックを三年間続けたおかげか、皆勤率が高い。（教務）朝食摂取率95%程度。1年生が低い傾向。</p>	B	<p>授業やホームルーム等での繰り返し啓発、全職員による継続的な取り組みができています。さらに生徒会が主体となって規範意識を高める取り組みを工夫したい。（生徒）</p> <p>生徒が学校の基本的な生活に達成感を持つことができています。（1年）</p> <p>ネットパトロールからの問題となるような指導はほとんどなくなっている。（生徒）生徒は、一人一台端末を安全に留意して活用している。パスワードの管理についての指導方法を検討継続。Googleや生徒共有のマニュアル化が必要。（教務）生徒がスマホに時間を取られ、家庭学習時間の減少につながっている。（教務）</p> <p>生徒の「遅刻」増加（教務）昨年度に比べて欠席は少なくなりましたが、遅刻が増えた。休まずに学校に来る意識は向上したが、自己管理に関しては改善すべき現状がある。（2年）朝食欠食について、例年並み。保護者を巻き込んだ対策を実施し</p>

			<p>治療勧告受診率平均50%程度。診療科目により格差あり。(視力検査 32%、歯科検診 14%) (保相)</p> <p>2件の自動車との軽度な接触事故があった。(生徒)</p> <p>「学校行事に積極的に参加している」90.9% 「部活動に積極的に参加している」88.0%</p>	<p>たい。</p> <p>治療勧告受診率は、眼科、歯科が低い傾向。う歯について、ほとんどの生徒は無し又は治療済み。少数の生徒が複数未治療を抱える。衛生観念が低い生徒が一部いる。(保相)</p> <p>朝食摂取以外は目標値を超えている。(3年)</p> <p>行事の運営面でも生徒が主体となり、工夫を凝らして、充実した内容とすることができた。部活動では多くの生徒が積極的に参加し充実したものとなるように工夫したい。(生徒)</p>
<p>イ</p>	<p>学習における基礎基本の定着と主体的な学習活動の推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で力が付いたと感じる生徒90%以上</li> <li>・授業において基礎基本を大切にし、深い学びをつくらせていると感じる教員80%以上</li> <li>・週5日以上、家庭学習をする生徒の割合60%以上</li> <li>・朝読書を通して読書の魅力や楽しさを実感できた生徒70%以上</li> </ul>	<p>教務 総合 工業 教科 図研</p> <p>「授業に意欲的に取り組んでいる」91.5% 「授業を通して力がついた」90.5%</p> <p>観点別評価について、実践例を提示し、深い学びの指導方法を提案、共有。生徒アンケート、教員アンケートともに高評価が90%以上。特に、基礎学習の力がない生徒を、細やかな指導で授業に追いつくように指導できている。(教務)</p> <p>「授業において深い学びをつくらせている」教員97.3%</p> <p>基礎基本を重視した授業を実施した。(工業・国語) 生徒間の対話を授業に多く取り入れた。自らで問いを立てさせた。(地歴) 外部講師招請も含めて実学としての教科の基礎基本を指導できた(商業) 試験の点数には個人差があるが、授業に向かう姿勢は比較的良好だった。(理科) 進路実現のための授業づくりや探究する力に繋げる実</p>	<p>B</p> <p>教員が、生徒の実情に合わせて基礎基本を重視した指導方法を工夫した結果、生徒は学力の向上を実感できた。(工業)</p> <p>情報では急速な時代変化に対応した授業が必要(商業) 基礎力定着に課題がある。特定の生徒が発表することが多いため、対話的学習を通し、考えを深め、考えを発表する場面を増やしていく。(理科)</p> <p>総合学科の特色である多様な科目があることを活かした、教科横断的な授業づくりが課題である。(総合)</p> <p>指導方法改善手法の共有化が課題。(工業)</p> <p>授業方法の工夫の共有が進んでいる。課題は、深い学びをつくる指導方法の共有のさらなる促進。上位の生徒の進学や資格取得への意識向上が必要。(教務)</p> <p>ズームやオンデマンドなど個に応じた授業に対応できた。 新しい教育課程や教員減になる中で、きめ細やかな指導をしていく工夫が必要となる。(理科)</p>

				<p>験の導入を行った。 生徒の達成感となる自ら答えを導出できる声掛けを行った。 科学的に探究する授業として、身近な現象を取り入れた授業を展開することができた。(理科) 小テストなどを通して、基礎基本が身に付きつつある。(数学)</p> <p>「週5日以上家庭学習をしている」47.3%</p> <p>「朝読書を通して読書の楽しさを実感できた」74.5%</p>	<p>家庭学習を全くしない生徒に学習習慣を定着させるのが課題である。(国語) 家庭学習の習慣がなく、積み重ねの学習を行うのが難しい。(数学)</p> <p>70%以上の生徒が朝の読書を通して読書の魅力や楽しさを実感できるよう指導したい。(図研)</p>
ウ	<p>人権意識の涵養に努め、思いやりのある豊かな心を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部支援員との連携を行い、迅速かつ組織的な対応</li> <li>アンケート内容を分析し、適切な指導につなげる</li> <li>人権意識をもって教育活動を行っている教員100%</li> <li>人権を意識して他者と接するようにしている生徒70%以上</li> </ul>	<p>保相 学年</p>	<p>SCの活用。延べ46名の生徒・保護者・教員が相談した(12月現在)。 校内研修により、特性のある生徒への理解啓発ができた。 特別支援学校 Co.、SSW、市町児童相談室との連携を行った。(保相)</p> <p>「人権意識をもって教育活動を行っている」教員100%</p> <p>「相手の人権を意識するようにしている」生徒93.2%</p>	<p>A</p> <p>SC、巡回通級指導講師、特別支援学校 Co. の授業参観を実施。当事者だけでなく周囲の状況を全体的に捉え指導に活かすことができた。(保健)</p> <p>おおむねの生徒が相手の人権を意識した行動ができているが、その場の感情で、心無い言葉が出てしまう場面も見受けられる。通級指導やカウンセラーの支援を活用し、組織的な対応ができた。(2年)</p> <p>声を掛け合っている様子が見られる。相手の気持ちを考えて行動することができている。(1年)</p>

<p style="text-align: center;"><b>工</b></p>	<p style="text-align: center;">個に応じたきめ細かな指導を充実させ、適切な進路の実現。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は進路実現に向けて、きめ細やかな進路指導を行っている と答える生徒、保護者 80%以上</li> <li>・「産業社会と人間」「未来伊豆探究」「キャリア設計」における外部連携授業の複数回実施</li> <li>・商工会、法人会との連携を複数回実施</li> <li>・就職希望内定 100%</li> <li>・国公立大学進学複数名、進学未定者ゼロ、公務員試験合格者輩出</li> <li>・検定試験や資格取得のための学習を通して学びが深まった生徒 85%以上</li> </ul>	<p style="text-align: center;">進路 工業 総合 学年 教科</p>	<p>「丁寧な進路指導を行っている。」生徒 92.2%</p> <p>「きめ細やかな進路指導を行っている。」保護者 88.6%</p> <p>「産業社会と人間」では、昨年に続き企業主催のプレゼン大会に向けての、探究的な学習を行った。「未来伊豆探究」では地域の企業にインタビューを行ったり、マナー講座を企業にお願いし実施したりした。(総合)</p> <p>未来伊豆、キャリア設計における外部連携授業複数回実施(3年、2年)</p> <p>地域の企業団体の授業を取り入れた。(理科)</p> <p>商工会、法人会との連携を2回実施(進路)</p> <p>伊豆の国市商工会との意見交換会を実施。(工業)</p> <p>就職希望内定 100%</p> <p>国公立大学3名合格</p> <p>公務員3名合格</p> <p>12月末時点での進路決定率 97.9%(進路)</p> <p>「検定試験や資格取得を通し学びが深まった」79.6%</p> <p>1年生は検定試験の全員受検(計算技術検定3、4級のいずれか合格 95.1%)、2・3年生は、類型専門技術と関係する国家資格等を受験し多数合格者あり。(工業)</p>	<p>細かな進路指導を行い、結果としてもおおむね目標を達成できた。(3年)</p> <p>進路実現に向けての指導に関しては、進路課と連携し、年間を通じて体系的に実施することができた。(2年)</p> <p>進路ガイダンスや進路アンケート、面談などを通して生徒一人ひとりの進路に合わせた適切な指導ができています。まだ進路を考える材料が整わずにいる生徒もいるため、進路の情報を継続して伝えていく必要がある。(1年)</p> <p>外部と連携した授業を行ったことで、生徒の進路等への意識の変化を促せた。ただ、例年に比べ、特に1年次での外部との連携が少なかった。内容も含め、検討が必要である。(総合)</p> <p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>伊豆市や地域と連携し、生徒の主体的な活動を引き出すことができた。(地歴)</p> <p>外部連携に関しても学びの状況に合わせて、適度に行うことができ生徒の学びにつなげることができた。(2年)</p> <p>地域との連携は、生徒、保護者と教員との意識の違いがある。教員から見るとさらに連携を深めていく必要があると思われる。(3年)</p> <p>合格を目指して学習する中で、生徒同士での学びのつながりができていた。(1年)</p> <p>総合学科生徒の検定や資格取得支援を考える必要がある。(1年)</p> <p>一生懸命取り組む生徒と、そうでない生徒との差が激しく、資格取得を促すような雰囲気作りができなかった。(2年)</p>
---	--	---	---	---	--

				<p>電気工事や電気保安について、関電工および関東電気保安協会より講師招請。(工業)</p> <p>漢字検定は年に3回実施。準2級2名、3級1名が合格した。(国語)</p> <p>世界遺産検定実施。(地歴)</p> <p>数学検定実施。(数学)</p> <p>資格取得に意欲的に取り組む生徒は例年程度あった。(商業)</p>	<p>すべての生徒に資格取得への取組の意義を実感させ、取り組ませる工夫が必要。(工業)</p> <p>引き続き、資格の意義を説明していきたい(商業)</p> <p>受験者を増やすこと、合格率を上げることが課題である。(国語)</p>
<p>才</p>	<p>地元自治体、学校、企業、地域等との連携を深め、開かれた学校づくりの推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部との連携授業を通して学びが深まったと感じる生徒85%以上</li> <li>学校は様々な教育活動において、積極的に自治体や学校、企業、地域等との連携をしていると感じる保護者80%以上</li> <li>P T A活動を理解し、協力している保護者70%以上</li> <li>行事終了後、学校HPを更新する</li> <li>学校公式SNSを月10件以上投稿する</li> </ul>	<p>工業 総合 総務</p> <p>「連携授業等を通して学びが深まった」90.5% 「授業や行事等で積極的に連携している」保護者95.6%</p> <p>プロフェッショナルへの道、工場見学・現場見学、電気安全教室、発電所見学、静岡どぼくらぶ他外部講師を招請した授業展開を実施。(工業)</p> <p>観光ビジネスにおいて地域の魅力を発見し発表できた。(商業)</p> <p>「P T A活動を理解し協力している」保護者67.5%</p> <p>各P T A行事では役員から運営有志を募ったが、積極的な参加が多数あった。(総務)</p> <p>新HPへのシステム移行作業を完了し、HPカテゴリ別に記事更新担当分掌を決定した。(総務)</p> <p>S N S投稿おおむね良好(総務)</p> <p>総合学科の特色ある授業を学校公式SNSに投稿した。(総合)</p>	<p>A</p> <p>実際の業務で活躍している講師の指導を受けることで、専門科目の学習に対する必要感が向上した。(工業)</p> <p>地域の企業や団体が授業に関して協力をしてくれる機会が多かったが、なかなか活かしきれなかったことが課題である。(総合)</p> <p>継続した関係ができるようにしたい(商業)</p> <p>新しい工業科に対応した内容の取捨選択が必要。(工業)</p> <p>クラス減に伴う会員数の減少に対応し、行事と役割分担、委員会、役員数の見直しを行った。(総務)</p> <p>記事の更新がタイムリーかつスムーズに行われるよう、担当分掌に声掛けとサポートを行う。(総務)</p> <p>総合学科として月1回程度特色ある授業をSNSに投稿した。(総合)</p> <p>Instagram に工業技術基礎などの、工業科特有の授業について投稿できた。(工業)</p>	

<p style="text-align: center;">カ</p>	<p style="text-align: center;">各学科の教育内容の改善を通して、特色ある教育の一層の推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジオパーク学習に満足している生徒 85%以上</li> <li>・ 工業科目の授業を通して、ものづくりに興味・関心を持ち、専門的な知識技能が身に付いたと感じる生徒 80%以上</li> <li>・ 「産業社会と人間」、「未来伊豆探究」の授業を通して、進路意識や地域への理解が深まり、将来社会で必要とされる能力が身に付いたと感じる生徒 85%以上</li> <li>・ アドバンスクラスを主体とした探究学習や個別指導を実施し、該当生徒の満足度 80%以上</li> <li>・ 校内研修や公開授業週間を通してスキルアップに繋がったと感じる教員 80%以上</li> <li>・ ICT機器を活用した授業を実践している教員 60%以上</li> </ul>	<p style="text-align: center;">学年</p> <p style="text-align: center;">工業</p> <p style="text-align: center;">総合</p> <p style="text-align: center;">進路</p> <p style="text-align: center;">図研</p> <p style="text-align: center;">教務</p> <p style="text-align: center;">教科</p>	<p>「ジオパーク学習に満足した」98%</p> <p>「ジオパークについて勉強になった」96%</p> <p>「ものづくりに興味関心を持てた」95.1%</p> <p>「専門的な知識技能が身についた」95.1%</p> <p>実習や課題研究において、ものづくりの楽しさを実感できるテーマを設定し実施できた。(工業)</p> <p>「地域への理解が深まった」91.7%</p> <p>「社会で必要とされる能力が身についた」92.7%</p> <p>「アドバンスでの学習を通して力がついた」94.9%</p> <p>アドバンスについては他のクラスより受験を意識し、難しい題材を扱った。課題など、Cラーニングを用いた。(数学)</p> <p>アドバンスクラスの授業では、自分の考えをまとめ、発言する機会を取り入れる工夫を行った。(理科)</p> <p>「研修等がスキルアップにつながった」教員 86.5%</p> <p>校内授業見学週間は年二回実施した。(図研)</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>最新設備を活用したものづくりの授業が定着しており、高品質な製品を製作できることが、知識技能の向上に貢献している。</p> <p>ICT機器を活用し、わかりやすい授業や生徒が主体的に活動する学習が展開されている。(工業)</p> <p>生徒は、専門的な学習に大変満足していることから、各教科の授業に意欲的に取り組んでいることが伺える。(1年)</p> <p>設備の使用方法や安全教育に関する情報の共有化をすすめることが課題。(工業)</p> <p>外部の協力もあり、進路意識や地域への理解が向上していると感じる。卒業生等にも協力してもらい、授業を実施した。</p> <p>(総合)</p> <p>未来伊豆探究では、卒業レポートのテーマ設定や探究度合いが、例年よりも深まっているように感じる。(3年)</p> <p>アドバンスクラスは2年次からの編成になるが、生徒の学びの意欲や進路意識を他のクラスより高めることができた。(2年)</p> <p>アドバンスに対して、どこまで学習を求めるのか、また評価にどう組み込むのかを考える必要がある。(数学)</p> <p>次年度も校内授業見学週間を年2回実施し、スキルアップに繋がるとよう推進したい。(図研)</p>
--------------------------------------	--	---	---	---	--

				<p>「ICTを活用した授業を 実践している」教員 81.0%</p> <p>ICT機器を使いやすい通信 環境や備品を整備し、多く の教員が、プロジェクタや PC、タブレットを活用した 授業を実践している。(教 務)</p> <p>C-ラーニングでの課題回 収や評価、百問繚乱による 採点補助が定着してきた。 (国語)</p> <p>ICT機器を使用し、生徒に 効果的に画像や動画などの 教材を示すことができた。 生徒にICT機器を利用した 発表の場を設けた。 (地歴)(理科)</p>		<p>プレゼン能力や資料作成能力が 向上した。(地歴)</p> <p>わかりやすい授業実践の情報が 蓄積している。(教務)</p> <p>ICT技術のノウハウを教科内 で共有していくことが必要であ る。(国語)</p> <p>ICT機器の常設が特別教室におい ても必要である。(理科)</p> <p>教員間での情報の共有化が課題。 (教務)</p>
<p>キ</p>	<p>防 災 教 育・環 境 教 育・社 会 貢 献 活 動 の 推 進 及 び 教 育 環 境 の 整 備・充 実。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練等の防災教育は、 災害発生時に必要だと感 じる生徒80%以上</li> <li>・清掃活動にしっかり取り 組んでいる生徒85%以上</li> <li>・危険個所の早期発見・早 期対応</li> <li>・施設・設備の不備による 事故発生0件</li> <li>・設備及び備品の有効活用</li> <li>・校内外の社会貢献活動(ボ ランティア活動)に、自主的に 取り組んだ生徒60%以上</li> </ul>	<p>総務 保相 生徒 事務</p>	<p>「避難訓練は必要だ」96.3%</p> <p>「清掃活動にしっかり取り 組んでいる」97.6%</p> <p>学期末大掃除は、内容を少 しずつ変えながら実施。清 掃場所分担についても見直 しをした。美化委員会では、 大掃除の準備片付け、行事 のごみ処理等、役割を遂行 した。(保相)</p> <p>施設の修繕については発 見・報告を受け次第、迅速 に対応した。</p> <p>設備の点検・調整を必要に 応じて行い、安全に使用で きるよう努めた。(事務)</p> <p>校内備品等使用調査で判明 した不用品についてはリユ ース希望者を募って調整 し、有効活用できた。(事務)</p> <p>防災設備点検に同道。設備 操作と管理システムの理解 を深めた。又、総務課職員 で共有をはかった。(総務)</p>	<p>A</p>	<p>大掃除については、定着し校内美 化に努めることができた。清掃用 具の管理点検は、今後も引き続き 実施する。</p> <p>清掃場所分担については、引き続 き工夫が必要。(保相)</p> <p>令和6年度における施設・設備の 不備による事故は発生していな い。</p> <p>生徒定員減に伴い、経営予算のシ ーリングがさらに進む可能性が あるため、設備ごとの点検調整の スパンについて、今まで以上の計 画的執行が求められる。</p> <p>実施したところ大変効果的であ ったため、頻度は別途検討すると して、今後も無理のない程度に実 施したい。(事務)</p> <p>有事においてスムーズな対応が できるように全職員に対する防 災設備機器の操作取り扱い方法 の伝達研修が必要。(総務)</p>

様式第3号

				<p>「年間1回以上、ボランティア活動に参加」70.1%</p> <p>修善寺大掃除を毎月（8月を除く）実施することができた。延べ約500人の参加者が集まった。（生徒）</p>		<p>社会貢献活動へ積極的に参加しようとする意欲が高まってきている。今後も生徒が主体となり社会性の向上に努めていけるような工夫を考えていきたい。地域の団体や特別支援学校との連携ができたことは良かった。本校の活動が地域にも浸透していることを感じる。次年度に向けて連携の方法や内容の工夫を検討していきたい。（生徒）</p>
ク	<p>業務の効率化、適正化による、生徒と向き合う時間と教職員の心理的安全性の確保。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が関係する業務において、精選と効率化が図れたと感じる教員70%以上</li> <li>・生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員70%以上</li> <li>・職場の風通しが良く、心理的安全性が確保されていると感じる教員70%以上</li> </ul>	管理職	<p>「業務の精選と効率化を図れた」教員91.9%</p> <p>「生徒と向き合う時間が確保されている」教員78.4%</p> <p>「心理的安全性が確保されている」教員89.1%</p>	B	<p>生徒定員減に伴い、教員数も減少する中で、個々の負担感を軽減するため、チームとしての取り組みを強化する必要がある。個々の先生方が、学習指導や生徒指導に十分な時間と労力が避けるように、体制を整えていきたい。（管理職）</p>